



第26回 平成25年4月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25



卒園式にて (卒園者と保護者の皆さん)

「卒園おめでとう」 乳幼児通所 卒園式

三月二十八日(木)に乳幼児通所の卒園式が行われました。三名の方が卒園され、一名の方が終了されました。ご家族やお友達みんなから、お祝いでいただきました。

来年からは小学生です。が、これからも元気に学校生活を送ってほしいと思います。ご卒園おめでとうございます。

(卒園児のご家族から) ひなの節句も過ぎ、いよいよ卒園です。ここは子供も親も安心して通える場所でした。多くのスタッフの皆さんに支えられ、今まで通わせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。あなたが障害児でなかったら、きっと人の温かさや優しさにこんなに気づくことはなかったでしょう。色々な人に支えられて生きている事を忘れずに、小学校でもほちほちがんばりましょう。



卒業を祝う会

三月二十二日(金)に第六回かもめ分教室卒業を祝う会が行われました。今年度の卒業生は中学部三年生の四名で、例年より少ないですが、ご家族やセンターの職員の皆様、在校生の友達がたくさん集まってお祝いでいただきました。心温まる会となりました。担任教員と三年間の学習の様子をスライドで振り返り、



みんなと記念撮影

一人一人校長先生から卒業証書を受け取りました。四月からは高校生。自分のもてる力を十分に発揮して、学校生活を送ってほしいと思います。ご卒業、おめでとうございます。(卒業生保護者から) 卒業に際して、高齢でも就学できたこと、センターに入れて元気に過ごせたこと、かもめ分教室の先生方が忍耐強く深い愛情で支えて頂いたことに感謝致します。

センターの発展を願って

前事務長 中村 弘



花見散歩 記念写真
(砂町水再生センター内にて)

東部療育センターは、開設して七年が経過しました。この間、先生方や看護師さんたちの確保定着・育成が大きな課題でした。今その課題が課題としてなくなった訳ではないし、センターの全職員や委託企業の方々の支えがあって今日があります。開設当初から比べると運営は安定し、超へ準々重症児の療育の基礎を作りあげることが出来たといつてよいと思います。

しかし、この間利用者の重症化は進み人工呼吸器を装着する方の比率も増大し当初の想定を超えてきています。これに対応していくためには、体制の充実をはじめとして様々な事項での対応が必要となります。

要となります。医療・看護と個性が尊重された生活支援を普及し重症児療育の先頭をいく全国のモデルとしての当センターを作り上げていくことが重要な使命であると思います。私は在任中、センターの使命を実現していくための重要なポイントがご家族との関係であると感じてきました。全ての職員が、ご家族の利用者様への想いとセンターに寄せる期待の大きさを日々感じています。ご家族と職員の想いをあわせることが大切ですが、ご家庭の状況も、世代も様々で仕事をもちている方も多々あります。ご家族の状況も変化中、一人ひとりの利用者様により良い療育を実現していただくためにどうしたらよいか。全国重症心身障害児(者)を守る会の「最も弱いものをひとりももれなく守る」という原則に立ち戻り、「この子らを世の光に」という言葉を思い起こしていく必要があると思います。多くの人がからめ出されている多額の予算や様々な方々に支えられていることに感謝しつつ、ご家族との新たな仕組みを作っていくことが必要であると思います。センターに着任してから、ご家族を含め私たちに課せられた使命とは何かを考えてきたことを述べてさせていただきます。

在職中の皆様のご厚情に御礼申し上げます。

還暦のお祝い

平成二十五年一月十七日(木)に「還暦を祝う会」を行いました。今回は二名いらっしやいました。それぞれの病棟で時間をずらして実施しました。



還暦祝いの様子

- 一、はじめのこぼ
- 二、還暦の方の紹介
- 三、有馬院長先生よりお祝いの言葉
- 四、利用者様とご家族による鏡開き

- 五、スライド上映
- 六、職員からのお祝いの歌
- 七、花束・記念品贈呈
- 八、ご家族からの挨拶
- 九、看護師長からおわりのこぼ
- などがつつがなく執り行われました。還暦を迎えられることの重みを実感しました。
- (ご家族から)
- 兄貴カッコイイよ!
- 当日の病棟内は、紅白幕・祝い膳・ケーキ・贈り物。自分のお祝いと判断したのか大役を果たしました。皆様からお祝詞等賜りましてありがとうございました。最後には還暦祝いを開催して頂き感謝します。(感想 妹・板屋様)

成人式

一月十六日(水)に二階南病棟にて成人式が行われました。

今年の新成人は一名でした。

当日は、病棟内のみならずお祝いの言葉を掛



新成人へお祝いのこぼ

けて頂くなか、式典が始まりました。式では、ご家族と一緒

に参加され、院長はじめ、療育部長、事務長、高橋看護長からのお祝いや、これまでの思い出を振り返り、懐かしい時間をみんなで共有することができました。式の終わりには、栄養科から、特製ケーキを振舞われ、みんなでおいしく食べました。



当日、振舞われた特製ケーキ

とてもしめやかな式典でした。成人おめでとうございませう。

第五回 院内研究報告会

三月十三日(水)に院内研究報告会において事例・実践・研究の三つの分野の発表が行われました。全体で十三題の発表があり、今回は東部訪問看護事業部からも参加し、外部に開かれた発表会となりました。

最優秀賞には児童指導員竹内則子さんの「療育における外出活動の意義」(重症心身障害児(者)の反応から)、優秀賞には看護師 五十嵐育子さん

の「排痰を促すケア・効果的なガス交換環境を提供する援助」、特別賞二題は東部訪問看護事業部看護師 中澤真由美さんの「二十三区における重症心身障害児(者)訪問看護の現状」と栄養士村松かおるさんの「呼吸器使用者の必要エネルギー量の算出の検討」がそれぞれ受賞しました。



入賞した皆さん
(前列中央に有馬院長、後列右は岩崎副院長)

ています。

公開講座



公開講座の様子
(褥瘡専門ナース 山本主任)

毎年、褥瘡予防対策部会が行っている公開講座を、二月二十日(水)に行いました。地域の施設職員の方々十名に参加して頂き、重症心身障害児(者)の褥瘡ケアについて情報交換をし、より良いケアを考える機会となりました。

平成二十四年度福祉サービス

第三者評価の結果概要

福祉サービス第三者評価は、専門的な評価者が事業者の福祉サービスの提供状況を観察、評価し、事業者自らサービスの質の向上を図るために実施しているものです。二十四年度の評価は、「福祉経営ネットワーク」が行いました。評価は定められた評価基準と手順をもとに行われ、場面観察やご家族の皆様アンケート結果なども

評価の参考にしていきます。ここでは、全体の評価講評について報告します。入所では特によいと思う点では、①感染症の予防への取り組み ②実践性重視した権利擁護への教育指導 ③食事内容や形態への配慮が評価されました。通所では、①感染症予防への取り組み ②保護者との意思疎通を促進するための取り組み ③夜間延長療育

の実施などが評価されました。また、さらなる改善が望まれる点として、認定看護師の育成、個別支援計画の充実、保護者とのコミュニケーションの促進、地域交流の促進に一層の努力を求められました。今後、この評価を踏まえサービスの改善に努めてまいります。なお、詳細については、外来、病棟でファイルが閲覧できます。また、インターネットから「福ナビ」でもご覧いただけます。

私は、四月一日付で正高院長には、重症児事務長に就任しました水野 眞(みずの まこと)です。私は二十三年ほど前に、守る会の北浦雅子会長とめぐり会い、重症児(者)のことを初めて知りました。その時、守る会の三原則の一つである「最も弱いものをひとりももれなく守る」という理念に強く共感し、以後、北浦会長を始め守る会の皆様方と親しくさせて頂いて来ましたが、また有馬

新人紹介

＜新事務長 水野 眞＞

(者)の療育ということについて、これまで色々教えていただきました。この度、縁があり、守る会が運営する東部療育センターにおいて、有馬院長の下で仕事をさせて頂いていただきます。よろしくお願いします。

先日、各病棟・通所を訪問した際、職員の働きかけによって入(通)所者の方々の表情が穏やかになり笑顔になっていく様子を見て、言葉に言い表せない愛おしさを覚えました。未熟な私ではありますが、当センターの四つの運営理念を心に刻み付けて、職員・スタッフの皆様と一緒にセンターのために精一杯力を注いでいきたいと考えております。よろしくお願いたします。

東部

あれこれ

今年の一月から三月にかけて当センターで行われた行事等について紹介いたします。

【一月】

十四日(月曜日)の「成人の日」は雪とミソレ交じりのあいにくの悪天候でしたが、当センター

編集後記

日差しが強くなり、春らしくなってきましたが、夏のような暑い日があったかと思うと、また厳しい寒さに戻ると、体調を崩される方も多いのではないかと心配をしていました。皆さん油断をしないよう体調管理をしっかりとして、利用者サービスに支障のないよう頑張りましょう。

では十六日に二階南病棟の入所者様の成人式を行いました。また、十七日(木曜日)には三階西、南病棟で入所者様の還暦を祝う会が執り行われました。皆様おめでとうございました。

【二月】



防災訓練の様子

十三日(水曜日)、総合防火・防災訓練を実施しました。今回の訓練は、これまでの実施の仕方を変え、シナリオ無しで職

【三月】

導入から七年を経過した電子カルテシステムは、端末の故障や動作性能の不良による業務効率の著しい劣化とキーカー保守の対象外となる機器が増え、システムの更新が懸案となっていました。いくつかの問題点はあったものの、新システムに切り替えることができました。